

所属長	所属科長	事務(局/部)長
		

令和3年3月31日

理事長 殿

学 長 殿

令和2年度“オール近大”新型コロナウイルス感染症
対策支援プロジェクト研究報告書

標記の件に関しまして、別紙のとおり報告いたします。

また、本研究報告の内容は、近畿大学学術情報リポジトリ (KURepo) に公開する旨、承諾いたします。

1. カテゴリー	<input type="checkbox"/> 研究 <input checked="" type="checkbox"/> 開発・改良 <input type="checkbox"/> 提案
2. 企画題目	キンチューブ大学構想

研究代表者

所 属 : _____ 総合社会学部

職・氏名 : _____ 西尾 雄志  (印)

令和2年度“オール近大”新型コロナウイルス感染症 対策支援プロジェクト研究報告書

企画題目	キンチューブ大学構想
研究者所属・氏名	研究代表者：西尾雄志 共同研究者：

1. 研究、開発・改良、提案目的・内容

YouTube 動画などを活用した反転学習教材の開発。反転学習の事前学習教材として YouTube 動画などを指定し、それに対応した授業資料を作成。事前学習教材は、1. 発展的学習につなげる目的、2. 高校で習得すべき知識の不足分を補う目的の2つの目的で使用した。当初想定していなかったが、ケースメソッドと親和的な内容に関しては、その手法も部分的に取り入れた(④「Two Monkeys Were Paid Unequally: Excerpt from Frans de Waal's TED Talk - YouTube」)。

2. 研究、開発・改良、提案経過及び成果

YouTube 大学等の動画資料、およびそこで取り上げている書籍を活用し、次の授業資料を作成し、2020年度講義で実施した。

1. 発展的学習につなげる目的での使用

①「サピエンス全史」(ユヴァル・ノア・ハラリ)(地域・コミュニティ開発論)(授業3回分)

発展的学習：虚構としての貨幣、国家を次の研究者の学説をもとに発展的に解説。

「貨幣論」(岩井克人) / 「国家論」(ベネディクト・アンダーソン、アーネスト・ゲルナー、アントニー・スミス：ソ連の崩壊)

②「2030年の世界地図帳」(落合陽一)(国際開発協力論)(授業7回分)

(1) ヨーロッパ的価値としてのSDGsと日本の戦略→環境性能を評価(条件)に加えた競争

発展的学習：最新のニュース「スーパーコンピュータ富嶽世界一」を解説に加える

(2) 絶対的貧困と相対的貧困

詳細解説：文系学部学生にとって理解がしづらい絶対値と中央値に関して解説

(3) 限界費用ゼロ社会

発展的学習：限界非常ゼロ社会における新しい教育のあり方に関して解説

③「FACTFULNES」(ハンス・ストロング他)(2021年度基礎購読用教材)(授業3回分)

発展的学習：Gapminderから読み取れるものを解説。それを踏まえて、次の点に関して発展的に学習する資料を作成。エレファントカーブ/プロスペクト理論、損失回避性、サンクコスト、セイリアンス(行動経済学)(セイリアンスの観点から考えると、自分が調べている企業は品質セイリアントな業界か? それとも価格セイリアントな業界か?)

③「GIVE & TAKE」(アダム・グラント)(2021年度基礎購読用教材)(授業1回分)

発展的学習：動画資料に基づき、囚人のジレンマ、ボランティア、トップセールスパーソンの特徴とニーズ把握に関して解説。

④「Two Monkeys Were Paid Unequally: Excerpt from Frans de Waal's TED Talk - YouTube」(『ママ、最後の抱擁——わたしたちに動物の情動がわかるのか』フランス・ドゥ・ヴァール)(2021年度現代の社会論)(授業1回分)

発展的学習：批判的思考能力に関する練習問題、道徳性に関する思考実験(ケースメソッド)、貨幣の流動性、孟子の道徳論、進化論的視点からの考察に関して解説。

2. 高校までの知識の不足分を補う目的での使用

「中東——混迷の本当の理由」(池上彰)(国際社会学)(授業5回分)、「北朝鮮——日本はどう付き合うべきか」(池上彰)(国際社会学)(授業4回分)。並行して紙媒体の授業資料を作成。

3. 本研究と関連した今後の研究、開発・改良、提案計画

本研究出られた知見は、日本学術振興会科学研究費（学術研究所助基金助成金）若手研究「疑似家族的な親密圏が構築される活動をモデルとしたハンセン病問題経験学習理論の構築」（課題番号 20K13686）（以下、「ハンセン病問題経験学習理論の構築」）に活用し、より広い範囲の学習モデルの構築を進めるとともに、今後の授業改善のツールとして本研究を活用する。

なお、「ハンセン病問題経験学習理論の構築」研究においては、教育手法として経験学習理論を想定していたが、そこに本研究でとりあげたケースメソッドの手法や観点（体験学習型ケースメソッド、課外ケースメソッドの概念）を取り入れて研究を進めていく。

また引き続き、動画資料を活用した反転学習を 2021 年度以降も実践することで、ブラッシュアップを重ね、改良に努めていく。

4. 研究成果の発表等

発表機関名	種類（著書・雑誌・口頭）	発表年月日（予定を含む）

5. 開発・改良、提案課題の成果発表等

①公益財団法人日本財団学生ボランティアセンター「acare（アクア）～社会の明日を考える。学生のためのメディア（gakuvo.jp）」2020 年度テーマ「大学生とコロナ」におけるインタビュー「西尾先生に聞いてみた オンライン授業の新たな可能性」（<https://gakuvo.jp/acare/2020/interview02/>）において、本研究の一部を紹介。

②2021 年度以降のオープンキャンパスにおける、総合社会学部の模擬講義にて、反転授業の紹介として高校生、およびその保護者に発表する。

③近大 DX（デジタルトランスフォーメーション）における共通教養科目のオンデマンド化（「現代の社会論」）の 1 コマ分として公開する。2022 年度以降、改良を加えた後、反転授業を大幅に取り入れたオンデマンド授業の開講を検討する。